令和二年度

勿来高だより

第九号　令和二年師走二十三日発行

理研部県大会優良賞！

今月十二日（土）に開かれた福島県生徒研究発表会に本校理科研究部が参加し、厳正な審査の結果、本校が発表した「蛭田川と四時川（２）～河川の比較と自浄作用～」が地学部門で優良賞（五位相当）を受賞しました。

いわき市内の高校で入賞できたのは本校のみと言う激戦を制し、優勝賞受賞という快挙に関し、松本部長は「今までの先輩方の研究や今年入ってくれたメンバーと一緒に活動した結果で賞が取れたと思っています。」と喜びを一杯にコメントしています。

文化系部活は、校内活動というイメージですが、理研部は写真のように、アウトドア。実際に現地に出向くフィールドワークを丁寧に行うことで、地域に根ざした研究を行っています。詳しい発表論文、口頭発表資料は、本校ホームページよりご覧ください。

作業学習体験

本校の特色ある取組の一つに共生プログラムがあります。先日は一年生がくぼた校において作業学習を体験しました。

作業学習は、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学ぶものです。

写真はビルクリーニング班での活動です。くぼた校の生徒に教えてもらいながら取り組みます。技能大会でプロから評価される技術の高さにみんなびっくりです。

作業の合間の報告や連絡もはきはきと、本校生が入って手順が違うことに関しても、監督の先生としっかりと相談できています。研修で参加していた本校職員も、就労に繋がる取組に感心していました。

加湿器フル稼働

朝、校長室の湿度は十五％、私のお肌はカッサカサ。

今年は、各教室に大型の加湿器を設置し、コロナ対策の環境向上につとめています。

加湿と換気。窓を開けるといわきの乾燥した空

気がどっと入り、一気に湿度が下がります。この冬加湿器は常にフル稼働。頑張れ加湿器！

現代歌物語　ママのDJ　第二回

仙田ノモ

「なんとか間に合ったな、よかったよかった」拓哉が昇降口で騒ぐ。もう、どのロがそれを言うの？パンダに味を占めた拓哉たちは、あれから七日間、来る日も来る日もフェイスペイントの腕に磨きをかけ、最終日の今日はライオンキングを完全再現、その出来の良さに他のクラスから見学者が続出、即席撮影会までやってのけた。

「拓哉たちは別な意味で充実してたわよね」ちょっと皮肉を言って、昇降口を出た。

「ひゃ〜、さむ〜」拓哉が素っ頓狂な声を上げた。もうすぐクリスマス。そういえば、今朝の天気予報で寒波襲来とか言ってたっけ。前を行く拓哉の吐く息が真っ白だ。

「くしゅん」私のくしゃみに拓哉が振り返った。「ああん？有紀、風邪引くぞ、コートとマフラーは？教室か？」気づかれたか。「ママの車の中」ちょっと小声で応えた。「はあ？まさかおまえ寝坊か？車で送ってもらって、慌てて降りて忘れてきたってこと？」図星だ。「まあ、そうなのかな」

「そうなのかなじゃねえよ、明日のリレーは有紀にかかってんだぞ、しかたねえなあ」そう言って拓哉は自分のネックウォーマーを私の頭からかぶせた。

「あたたか…」思わず言いかけて口をつぐんだ。私のキャラじゃない。顔の周りに甘い香りが広がる。拓哉がいつも大量につけるシーブリーズのツンツンした匂いも、落ち着くとこんな香りに変わるんだ。「あれ、有紀？ここは着ているダウンも寄こせっていうところじゃねえの？あはは」拓哉がいつもの調子でおどけて見せる。「ば〜か、そしたら拓哉が風邪ひくだろ」やっと答えを返して、歩き始めた。拓哉の香りが温かい。心臓がトクンと震えた。

いつもは三人で帰る道。いつもと同じ拓哉とのじゃれ合い。いつも立ち寄るコンビニの明かり。いつも…拓哉と紗英はまっすぐ進み、いつも私はコンビニの角を曲がる。

たまたま体育祭の準備の間だけ二人で帰ることになったってだけ。他はいつもと変わらない。いつもと変わらない。いつもと変わらない。いつもと変わ……。また心臓がトクンと震えた。

「有紀、寄っていかないの？」拓哉が呼び止めた。コンビニのスピーカーからは聞き覚えのある曲が流れてくる。ママのDJがかけてた曲だ。「きょうはいいや」「そっか、今日は寒いし、そうするか。明日からはいつも通り紗英と三人…」拓哉の言葉を遮るようにいつものバイバイ。

拓哉の香りに半分顔を埋め、「ばか」と小さくつぶやいて私は一人歩き出した。

♪一緒にいたいと　はじめて想った
♪一緒にいれたら　この冬もずっと
♪今度逢える時は　もっと素直になりたい
♪十二月この道で　手を繋いで歩きたい

（作詞　PIPELINE PROJECT「一緒に…」歌MAX）

（つづく）

まっくす　いっしょに

校長のつぶやき

ある研修会で朗読とピアノのコラボレーションを学び、和歌をベースに物語が発達した「歌物語」のようだなと思いました。

ふと、ググれば指定の曲を聴ける現代の環境下での歌詞ベースの短編小説という実験を思いたちました。小説途中の検索窓を参考に指定の曲を準備して、小説と歌詞のコラボレーションをお楽しみください。

申し訳ありませんが、パケット代は各自負担でお願いしますね（笑）。

（本紙中のイラストは「いらすとや」WEBよりお借りしています。）